



知非齋日記  
三

又6  
5757  
3



門又6  
5757  
3

文政二年

正月

二月  
三月

高田早苗日記

七

高田早苗  
日記

11231

Rechnung

知非齋日記文政三年

正月丙寅小



元日甲午晴寒氣凜冽伊勢曆云止  
留金日吉書始齒因倉開比米始著  
衣始湯殿始學乘始万吉云和歌一  
首

未留春波留米左利計里吾書路乃霞

之關乃今日乃曙

二日晴寒氣難堪相摸因高座郡  
洲邊村人天野平左衛門寄書相馬

日記刻成詠腹赤御糺和歌

長濱乃例乃御糺取渡之面後良

波之支左乃乃諸人詠臨時客

仕倍支心母安加支器席尔浦天流

安留自志羅字村今宵樂子詠一首

之和歌

三日晴硯水冰北村節信鉄形紹真

竹内直躬等来而賀正訪大石千

引正木千幹立綱法師關是安浦

北村節信一柳千古佐野千俊村田多

勢子等之家

四日晴片足寬光橋本常房来訪

藤澤寺者壹法師寄書遣使於

村田多勢子之詩乞扇面之歌依人

之需也其歌曰不逢窓

淚而已落増利都逢事波伊都

乎時来母奈久々叙布留訪竹内直

躬齊藤謙清水濱臣等之家

五日晴屋代弘賢翁片足寬光寄

書北川真顔来訪遣使於多勢

子之許淺草本所小梅麻布邊處  
有出火詠丑首和歌霞

薄墨乃霞乃衣著之山乃須蘇能  
波不染奴白妙乃雪當

麻良宇止乃園乃寫於止奈倍波  
阿留自願尔母籠尔唯良布鉤梅

白妙乃浪打寄瓊留難波津仁加乎  
良傳咲可波梅止知良米也柳

先用久二葉乃眉乎餅尔波之天  
沿柳釣乃經垂留殘雪

時不知奴野止也伊波乎之春日野也  
鹿兒斑尔雪乃殘礼留又詠三春和

歌  
雪尔猶吉坦乃保綫路彼絕奴礼行

不泥天而虛空尔春尔来仁介理昨夜案

子詠一酒之歌余曩有河歲暮之

歌今獲尔錄中而記于茲  
後士母春乎波此處尔未豆相也登

志乃久礼止天纜久河隈  
六日晴获野長石并盛時閑帝政

時

倉

茅來訪遣使於弘賢主之詩訪  
 兼刑憲齋片倉鶴陵猪飼正  
 穀北川直真願北嶺言西應寺芝  
 山大筑室平田篤胤等之詩  
 七日曇雲自車轉雨至成時止佐野  
 千俊大石千成等來訪伊勢屋伊  
 之助古譯安子之詩安子之歌二首  
 八日晴立綱法師北村節信來遣使  
 村田多勢子屋代弘賢主之詩  
 九日晴片倉鶴陵中山信名榎山坦齋

茅來

十日晴上野御成橋本常房來訪  
 十一日晴清水濱匡屋代弘賢主朔  
 音法師茅來訪  
 十二日星雲岸本由豆流孝子其馨  
 菊池相孫茅來訪鳥海系寄  
 書訪小行茂仲正木千幹北村  
 節信三綱法師之詩遣使於橋  
 本常房之詩  
 十三日雨雪遣使於弘賢主北村

節信閑野洲良等之詩趣

荻野長之齋

十四日晴知賢主表隈國岐阜人三

河屋平三郎等之書來北村節信

來訪訪島岡山島古澤保國之

家

榑十軒

十五日晴行內直躬古澤知則秋山光

魁豬飼正敷山竹茂仲等來訪嶋

同家子寄便手我

十六日晴大羽屋弥七來

十七日晴竹內直躬來訪村田多

勢子秋山光魁豬飼正敷岸

本由五流等之詩一趣山本正臣

之歌會筆題多年既梅

相亦安比天咲也梅園者古止

亦愛流河野自乃名佐榮香俣波

之當會旅者

奎豆具左支煙尔夢母始比得交

壘我際出名利勢之危波

書波猶旅乃名利尔見尔在礼持

朝霞 今宵月如都過良年

十日晴 岸在由流 屢考要助

真都人 才助 考考 考佳 於 弘賢

主之詩 訪 山崎 美成 了 阿 氏 師

片 出 實 光 素 其 馨 十 之 家 山 崎

真 梅 為 書 智 瀨 固 之 歌 二 首

十九日晴 橋本 常 考 考 考 訪 趣 大

田 南 畝 河 原 信 光 村 田 多 勢 子 等

之 會 多 勢 子 之 筆 題 杉 殘 雪

降 埋 年 杉 乃 美 雪 母 滿 初 天

千年乃色乃見由留頃 鏡當座立  
春風

秋津洲 今朝立風乃今止許久天

條 茂 鳴 佐 奴 大 御 世 乃 春

廿日晴 河原信光 未訪 今日引風

不快 故臥于病床

廿一日 雪遣使于 清水濱 臣 齋藤

彦 磨 等 之 詩 濱 臣 之 會 筆 題 池

冰猶殘

春風乃解 止波 頃 礼 抒 猶 左 江 天



半波水留池乃月影  
首題江上春色多  
三行磨之奇

打見礼波冲乃绿岛茂加浪表  
豆之薄是色乃难波江乃春名并  
盛時未訪高知在即奇猿後迹

寄書  
廿二日晴遣使于村田多瀨子一柳  
千古等之詩千古之會首題梅之  
後

每春尔須和江秀天佐之梅乃

香具波之支名乎負流名可奈知  
賢主未訪園与上節和由源子等  
寄書

廿三日晴和由源子寄書遣使于  
大田岸之詩竹内直躬来

力四日曇至午時雨雪入夜猶不止  
積可二尺橋本常序来訪遣時鄰

於正木千幹之歌會兼題  
都尔母都尔母未豆乃門詩止尔  
春立未如留暖乃空

廿五日 晴 歌の気なふなるるる  
初春 祝も

屋代和賢

あつたまの春の如ふいそあつり  
あつたまの春の如ふいそあつり

藤原正臣

春のまへ人もあつり  
あつたまの春の如ふいそあつり

秋山光彪

ナリとのあつたまの春の如ふいそあつり

あつたまの春の如ふいそあつり

藤原元成

春のまへ人もあつり  
あつたまの春の如ふいそあつり

大正子

あつたまの春の如ふいそあつり  
あつたまの春の如ふいそあつり

深谷好

あつたまの春の如ふいそあつり  
あつたまの春の如ふいそあつり

記正

乃あまの梅さよのちのやま

さよのちのなまのちのあま

若原修

卯の歌もろくまのちのあま

乃のちのなまのちのあま

長尾景光

そのちのちのちのちのちのち

おさうらひのちのちのちのち

一柳千代

あまのちのちのちのちのちのち

んれちのちのちのちのちのち

清水瀧臣

あまのちのちのちのちのちのち

世のちのちのちのちのちのち

中野游氏

そのちのちのちのちのちのち

乃のちのちのちのちのちのち

桂川正家

あまのちのちのちのちのちのち



おのれはうらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

浮景句

せうたうらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

浮景句

おのれはうらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

浮景句

おのれはうらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

うらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

梅保句

うらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

うらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

梅保句

おのれはうらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

うらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

梅保句

おのれはうらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

うらやましくたはるるに  
うらやましくたはるるに

梅定流

あふもいさむのやとおとん

原年也

あふもいさむのやとおとん

多原年也

あふもいさむのやとおとん

梅定流

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

平定流

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

あふもいさむのやとおとん

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

あなを信

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

あなを信

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

あなを信

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

あなを信

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

あなを信

わがこゝろをいかにいかに

あなを信

あなを信

Handwritten text in cursive script on the left page, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in cursive script on the right page, consisting of approximately 10 lines of text.







竹内と那松申すは流の如き  
竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き  
竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き  
竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き

竹内と那松申すは流の如き





行るる新儀をうけつるを  
成すは、一、曲之國也  
修之鋪の事しつ  
十廿日時、新儀をうけつる  
早何と申すあはれにひかへり  
為物の事は、黒くしつる者  
木の事は、あはれにひかへり  
松の事は、あはれにひかへり  
近きと申すなるは、あはれにひかへり

別の事は、あはれにひかへり  
三の事は、あはれにひかへり  
丹の事は、あはれにひかへり  
新の事は、あはれにひかへり  
七の事は、あはれにひかへり  
其の事は、あはれにひかへり  
三の事は、あはれにひかへり  
ゆの事は、あはれにひかへり  
新の事は、あはれにひかへり  
新の事は、あはれにひかへり  
新の事は、あはれにひかへり











十二日南風 寒く曇り或時小雨  
七時時雨ありしに止む  
十日の二日 三條山火俗にのり  
義教物まゝありしに  
梅塙まゝありしに  
十一日 晴れ 寒く曇り  
況ふ時雨ありしに  
梅塙まゝありしに

梅塙

よらう久しき  
梅塙まゝありしに  
十一日 晴れ 寒く曇り  
況ふ時雨ありしに  
梅塙まゝありしに  
十日の二日 三條山火俗にのり  
義教物まゝありしに  
梅塙まゝありしに

阿 ちほちほちえし 杉也  
候 中 山 伝 名 正 乃 功 立 形 千 志 ぞ  
く 弘 三 司 大 田 津 夜 高 松 津 直  
子 名 山 正 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
立 上 白 里 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
ま 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
河 野 吉 兵 衛 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

阿 ちほちほちえし 杉也  
候 中 山 伝 名 正 乃 功 立 形 千 志 ぞ  
く 弘 三 司 大 田 津 夜 高 松 津 直  
子 名 山 正 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
立 上 白 里 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
ま 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
河 野 吉 兵 衛 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三  
お 田 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

行内直形 二つおのまきさき  
さき帯 刀さきおのまきさき  
よふよふおのまきさき  
厚さおのまきさき  
廿日星雲 或時 杉中 若くは 枝  
洞院 若くは 栗原 孫も 色紙 也  
高次 若くは 是法 若くは 子 介 也  
同 若くは 杉中 若くは 若くは 若くは  
若くは 若くは 若くは 若くは 若くは

廿一日 行内 直形 若くは 若くは 縁  
山 若くは 若くは 若くは 若くは 若くは  
若くは 若くは 若くは 若くは 若くは  
廿二日 行内 直形 若くは 若くは 若くは  
若くは 若くは 若くは 若くは 若くは  
若くは 若くは 若くは 若くは 若くは  
若くは 若くは 若くは 若くは 若くは  
廿四日 行内 直形 若くは 若くは 若くは  
若くは 若くは 若くは 若くは 若くは



卯方先よあまの松子あり  
ゆり野草の一日たりし中へ卯  
町一丁目卯向三日草を河内  
野河内河内町打名かき遊  
卯夕時松中かき遊まき遊

三月

朔日雨を成はるかき遊  
二日~~卯~~方へ子川一松中え厚  
卯~~卯~~松中かき遊まき遊  
とらまへ卯向かき遊まき遊

卯方一尺三寸力よりやまこあ  
こは野田の松一三  
らるる或止左田法を少相  
ゆりかき遊まき遊  
のまき遊まき遊  
うりゆりまき遊  
卯方時まき遊  
卯方ゆりまき遊  
卯方ゆりまき遊  
卯方ゆりまき遊  
卯方ゆりまき遊





原稿に遺る并垂りて

二事あり

一日 月夜時 山石を以て  
松竹園を以て好む所あり  
沖御土に之を居る所あり  
此の時 乙井中を以て  
たしとて 山石を以て  
可なりとて 山石を以て  
なりとて 山石を以て  
十日 右の粒の境を以て

らざりしものも

直影ありとて

よりあるも

十日 凡の

教する由

そとあり

先んずり

十三日 時 竹内直影あり

さる早も形おおし園子所  
草花の園子も上り守所  
まじりおしおしおしおし  
とておしおしおしおし  
月

よらのおしおしおしおし  
あつたおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし

北の人のおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし

おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし  
おしおしおしおしおし





廿五の成り月次新しき事  
日れり身方三徳の直新者  
去る夜中迄にほれあむ  
上原建統はほれあむ  
中しにあらむ  
なりたる時少くは仲の  
良新物柄やあらむ  
多分都府男はほれあむ  
左七國のほれあむ  
北のまじりつる川のほれあむ

御下難多おと成る  
まの字中がらうりてあ  
かたの時物の治良の港  
橋のつたけの直新者  
小川のほれあむ  
後職字の具深達はほれあむ  
造深き真帖もつたけあり



